

経営史学会「大学院生育成企画」

一次世代研究者の育成と継続的な研究ネットワーク形成に向けてー

経営史学会研究組織委員会

本企画は、博士課程学生を中心とする若手研究者が、フルペーパーに基づく研究発表と集中討論を通じて研究を深化させ、学生間および招聘講師・教員との長期的な研究ネットワークを形成するための学会事業です。全国大会を補完する育成制度として、2025 年度に実施した経営史学博士スプリングスクールの成果を継承し、隔年での継続実施を目指します。

1. 企画のねらい

- ・ 博士論文・投稿論文につながる水準で研究を鍛える継続的な機会を提供します。
- ・ 少人数での相互精読と集中討論を通じ、研究の要約力・批判的論点構成能力を高めます。
- ・ 大学・研究分野を越えた若手同士、ならびに教員・招聘講師との継続的な研究ネットワークを形成します。
- ・ 将来の全国大会報告者・学会誌投稿者・学会運営人材の裾野を広げ、経営史学の継承と発展につなげます。

2. 開催・運営の基本設計

- ・ 開催主体：経営史学会
- ・ 開催スケジュール：隔年開催
- ・ 開催形式：2泊3日の合宿形式
- ・ 参加規模：計14名（大学院生8名、指導教員3名、実行委員3名）を想定
- ・ 運営体制：研究組織委員会内に「大学院生育成部会」を設置し、同部会から実行委員を選出します。将来的には、理事会レベルで実施計画を報告できる委員会体制への発展を目指します。

3. 想定するプログラムの特徴

- ・ 事前にフルペーパーを提出し、参加者全員が精読したうえで研究発表・討論を行います
- ・ 各報告に個別コメンテーターを配置し、集中的かつ建設的なフィードバックを行います
- ・ 講師講義や休憩時間・懇親の機会も活用し、公式・非公式の双方から研究交流を促進します。

4. 予算と持続可能な運営

想定予算：60万円

- ・ 経営史学会理事会への予算申請を基本としつつ、外部資金も探索します。
- ・ 大学院生からの参加費、会員等からの寄付金も財源候補とします。寄付金は口座振込で受け付け、受領証を発行します。
- ・ 資金・会計処理、会場確保、講師調整、運営ノウハウの継承を学会事業として安定化させます。